

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28年 5月 24日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490500273		
法人名	社会福祉法人 政樹会		
事業所名	グループホーム ベたにあ		
所在地	広島県呉市中通四丁目9番17号 (電話) 0823-32-5985		
自己評価作成日		評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3490500273-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年6月22日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>グループホームベたにあは、認知症の進行を緩やかにする為、下記のサービスにこだわっています。</p> <ul style="list-style-type: none">・呉市の中心地である立地の良さを活かして、買い物や散歩、理美容室の利用、夏祭りへの参加等、積極的に外出を支援します。・特別浴槽がある為、重度の入浴介助が必要になっても対応出来ます。・認知症の方は、赤や黄色が判別しやすいと言われており、「〇〇色の椅子に座って下さい」と、色の指示をすると理解されやすいです。その為、フロアの中心に赤いソファを置いています。・「尊厳を守る介護」を行う為、丁寧語を意識し、日々のケアに取り組んでいます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>この1年間の特徴的な取組みとして、第一に理念を達成するための年間行動目標の設定・検証作業の深化がある。昨年度の重点目標「丁寧な言葉、丁寧な声かけ」を職員が振り返り、懸念していた利用者との距離感も生じることなく、引き続き笑顔が見られたので、必要な取組みとして継続していくことになった。これについても法人内各事業所による研究発表会で毎年の実践を振り返り、理念の達成度を検証している。それを踏まえ、今年度は「『できません』から『やってみましょう、やってみます』」と目標を深化させた。第二に、人材育成の深化である。職員会議や提案書により、職員から意見等を聞く機会を設けており、効果的な提案には、「good job賞」で表彰している。衛生面を考慮して剥がれないタイプのマニキュアの使用を提案した例があり、それが職員倫理要綱の「身だしなみチェック表」に反映された。第三に外出支援の深化である。開設3年目で初めて利用者全員での外出計画に取り組み、実施出来た。それは、大和ミュージアム見学である。第四に事業所の力を活かした地域貢献の深化である。1階レストランにおいて、昨年度後半から月に1回「認知症予防カフェ」を開催し、認知症についてのミニ講演会や近隣の楽器店の方による音楽療法等を行い、地域住民が参加している。「人の集まる商店街は、福祉を実践する場として適している」という施設長の哲学の下、「福祉の力で、地域を元気にする」取り組みが進行中である。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「人してもらいたいと思うことを人にもしなさい」という法人理念を実行する為、2ヶ月に1回のミーティングや内部研修会等で共有し、どの様に現場で活かしていくか話し合っている。又、職員は、裏面に法人理念を記載した名札を身につけており、朝礼において、皆で唱えている。	前施設長の策定による法人理念に沿って、法人は毎年重点目標を立てる。それを基に、事業所は半期毎のチーム目標を、職員は個人目標を策定し、期末に管理者と評価して、実践力の向上に活かしている。また朝礼時の唱和や定期的な会議等で理念を共有し、ケアを実践する上で、迷った時などに立ち返るべき原点として位置付けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	近くの商店街への買い物や公園への散歩、理美容室の利用、「呉みなと祭」のパレードの見学や地域の夏祭りへの参加等、積極的に外出をしている。外出時には、地域の方との挨拶や会話が自然に交わされ、地域の方が相談に来所する事もあり、当施設として出来ることを通して、交流が始まっている。又、地域の幼稚園児が七夕の時期に来所し、歌や踊りを披露したり、利用者から歌や手芸作品をプレゼントした交流があった。	事業所は、地元商店街の振興会に加入し、そこでの情報交換により、夏祭り等の地域行事に参加したり、日々の買い物等で地域に溶け込む努力をしている。七夕の時期には、地域の幼稚園児の訪問による世代間交流もある。更に職員が通っている教室が縁で、三味線・民謡ボランティアを受け入れたり、昨年からは始めた「認知症予防カフェ」で地域住民の参加を得る等、相互交流も為されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	当施設1階で開設しているレストランにパンフレットを置いて、問い合わせに対応出来るよう心がけている。又、レストランにおいて、月に1回「認知症予防カフェ」を開催し、認知症についてのミニ講演会や「塗り絵」、近隣の楽器店の方による音楽療法を行い、地域の方が参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、定期的に運営推進会議を行い、利用者のサービス状況等を報告している。「認知症予防カフェ」で音楽療法を行ってもらっている近隣の楽器店の方に参加してもらい、参加者からの質問や意見はサービスに反映させ、サービス向上に努めている。	運営推進会議は地域包括支援センター職員と、時に民生委員・地域代表・市担当課職員が参加し、定期的に開催されている。会議では事業所の現況・行事報告や、参加者相互の意見・情報交換が行われ、そこでの意見の反映の一例として、事業所主催の「認知症予防カフェ」の周知方法として、近くの高齢者健康ジムにチラシ案内をしたことがある。また、議事録は家族に閲覧可能となっている。	会議は定期的開催はされているが、参加者が固定化しつつあり、本来あるべき議題の「サービスの実際・評価への取り組み状況等」に対する意見交換の記録が不明瞭である。会議の活性化のため、地域住民に呼びかけ、多職種の参加により、多面的な議論を可能にする案や、また議論の過程を具体的に記載して、中身を「透明化」する案など、参加者の意見をサービス向上に繋げていくことを期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営に関して疑問があれば質問をしたり、報告をする等、機会があれば市町担当者に連絡している。又、認知症アドバイザー資格を持つ職員が、市が実施する地域住民向けの認知症理解講座に、講師として協力している。	運営推進会議には毎回、地域包括支援センター職員が、時に市担当課職員が参加し、情報共有を図っている。また、保健所主催の「認知症サポーター養成講座」にオレンジアドバイザー資格を持つ職員が講師として協力している。更に、年に1回、市の介護相談員の訪問を受け入れ、協力すると共に、運営に関する相談・助言により市との連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>内部研修会を設けたり、職員同士の声掛けを行うようにしている。玄関の施錠については、夜間に、場合により施錠することがある。(日中は、ほとんど)認知症ケアの専門知識を持つ職員を中心に、落ち着いた気持ちで穏やかに過ごせる様、利用者の精神面でのケアに努めている。</p> <p>又、外部研修に参加した職員の報告書を職員間で共有するなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>内部・外部研修を通して、職員は「身体拘束をしない」必要性を認識し、具体的なケアの中で実践を重ねている。例えば、昼間は正面玄関を施錠せず、見守りを行ったり、不穏になった利用者には職員が見守りをしつつ、その方の思いを把握し、行動を理解して、言葉で環境を変えながら意識を向けて行くことや、また、「言葉による行動制限」など、「不適切な」ケアを意識することが出来る様に、管理者は適宜声掛けを職員に行い、気づきを促すようにしている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>内外部研修会において、虐待に関する定義や行為等を学習する機会を設けている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>内外部研修会において、権利擁護に関する制度等を学習する機会を設けている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、書面や口頭等で十分な説明を行い、理解・納得を図っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情受付窓口の設置は、契約時に説明し、玄関前にも閲覧出来る様にしている。</p> <p>当施設での様子の写真の送付における意見を、家族等へのアンケートを実施した。</p> <p>又、法人が運営する地域相談センターでは、地域住民だけでなく、家族等も相談しやすい環境を整えるよう努めている。</p>	<p>意見・苦情受付書は玄関前に設置されているが、苦情は特にはない。利用者の近況を写真で知らせる取り組みに対し、家族アンケートを募った結果、好評だったので実施継続とした例がある。また、2か月毎に認知症の家族交流会を開き、介護経験の長い家族からの助言など、家族同士の交流・支援体制を採っている。更に法人運営の地域相談センターでは、地域住民や家族に対する幅広い相談窓口となっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的にミーティングを開き、職員の意見を聞いた後、提案書により職員より提案する機会を設けている。それらにより、課題が見つかった際は、当施設全体のケアの質の向上に活かしていけるよう努めている。 又、年に2回行う「目標管理シート」にて、「法人・施設等に対する要望」を自由に記述できる欄を設けている。	毎月の職員会議や提案書により、職員から意見等を聞く機会を設けている。効果的な提案には、「good job賞」で表彰している。衛生面を考慮して、剥がれないタイプのマニキュアの使用を提案した例があり、それが「身だしなみチェック表」に反映された。また、半期毎に職員個別の「目標管理シート」で、職員は管理者と目標設定のすり合わせを行い、期末評価の終了後に、施設長と面談する機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人面談を年2回以上行い、各職員が抱えている悩みや意見を聞く機会を設けている。 又、目標管理シートを使用する事で、各職員が目標を設定して、それを上司がサポートしながらキャリアアップ出来るよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部では、初任者・中級と段階を踏んでの研修を行い、外部への研修には積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部研修会や法人内各事業所による研究発表等で、サービスの質を深めている。 又、外部の施設職員の研修を受け入れ、サービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	出来るだけ多くコミュニケーションを図ったり、新規利用者の情報を職員間で確認している。利用契約に至るまでの期間に、管理者や計画作成担当者だけではなく、介護職員も自宅や病院等の他施設に伺い、話の場を確保したり、利用者が話しやすい環境となるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>利用前は家族等からも情報収集を行い、利用時の生活に反映出来るよう努めている。又、気になる点等は早期解決を目指している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>同法人の居宅介護支援事業所や小規模多機能ホームのケアマネジャーと共に相談しながら、本当に必要なサービスを提供出来るよう努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>「できる・できない」、「好き・嫌い」、「得意・不得意」等をアセスメントし、利用者一人ひとりに無理のない範囲で出来ることを職員と一緒にいたり、対話をし、その時間を大切にしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>利用者の当施設での近況を細かく家族等に伝えるよう努めている。又、家族等に月に1度、日頃の当施設での様子を写真に撮り、送付したり、家族等に来所していただく等、話し合う機会を設けている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>利用前に利用していた理美容室や店へ外出出来る様、計画を立て実施している。又、併設の個別対応デイサービスの利用者とは、日常的に交流しており、馴染みの関係を構築出来るよう努めている。家族等の協力を得て、一時帰宅をする利用者もいる。付き合いのあった近隣の方の訪問を、積極的に受け入れている。</p>	<p>「地域との絆」を大事にしており、家族の協力のもと理美容院への外出・買い物・地域行事を通して、馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。併設のデイサービスの利用者と旧知の間柄の方もあり、日常的に交流が為されている。また、開設3年目で初めて、利用者全員での外出計画を実践し、地元の「大和ミュージアム」見学や呉港の食事処でふるさとの味を堪能した。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	体操・レクリエーション等で、個別対応デイサービスの利用者とも交流する機会を設けている。又、利用者同士の関係がスムーズに構築される様、ミーティング等で職員の意見を収集し、検討している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了した後も、当法人内の居宅介護支援事業所や地域相談センター等において、家族等の相談を受け付ける等、経過をフォローしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の言葉に耳を傾け、行動や表情からも思いを汲み取れるよう努めている。又、家族等が来所された時は、日常の生活を写真で見させていただいたりして伝えている。家族等からも継続して聴き取りを行い、本人の思いの把握に努めている。	利用者毎に担当を決め、職員は利用者の気持ちを大事にしながら、ゆっくり話す時間を作り、その方の行動を理解するよう努めている。例えば、他の利用者への攻撃的な言動が問題となったケースでは、その背景に「自己の将来に対する不安」があるのでは、と考え個別に関わる時間を設けた。また、食事に1時間以上を要するケースでは、「残したら勿体ない」という気遣いや長い便秘が原因ではと考え、本人の苦しみに寄り添って対応した経緯がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用開始時に細かいアセスメントを実施するだけでなく、日常の会話からもこれまでの生活について把握し、家族等からも聞き取りを行い、支援経過等にまとめて、共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護日誌やケースファイルの日々の記録を中心に、朝礼や夕礼、その他口頭での申し送りを実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>毎月のケアプラン会議で、利用者の希望を尊重したケアや課題について検討し、家族等にも来所時にその内容について話し合い、助言をいただいている。ケアプラン会議前には、掲示スペースに職員の意見が書ける仕組みをとり、会議に参加できない職員の意見も汲み取ることができるようにしている。又、課題に対する経過を記録し、モニタリングを行うことで、ケアプランに反映している。</p>	<p>介護計画は、計画作成担当者がアセスメント、本人・家族の意向を踏まえ、原案を作成している。担当者会議に不参加の職員は事前の書類にて会議に参加し、計画担当者は出席職員とケアの実行可能性を検討して、介護計画を立案している。毎月モニタリングを行い、計画の見直しは半年を基本に適宜実施している。塗り絵が趣味の利用者が、選んだ題材を根気よく仕上げ、他の利用者として喜び、その作品集を家族と楽しんだ事例がある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>介護日誌やケースファイル、疑問・質問記入表等に細かく記入し、ケアに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>個別対応デイサービスと共同しながら、幅広く柔軟に支援を行っている。又、当施設1階で開設しているレストランで、定期的にティータイムを設けている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の幼稚園児との交流や唄・三味線ボランティアによる演奏会、児童養護施設よりキャロリングの訪問を受け入れている。利用者の友人等が、面会に来ている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力医院の定期往診を月2回行ったり、協力歯科医院の訪問診療を必要時行っている。専門医の受診は、家族等の協力を得ているが、緊急時は当施設で対応している。協力医の24時間対応により、緊急時や夜間の体制を整えている。</p>	<p>利用前の主治医の受診継続も可能としているが、殆どの利用者は事業所の協力医を主治医としている。協力医の月2回の継続的な往診や、3名の非常勤看護師の配置もあり、協力医との連携を図った適切な医療体制が構築されている。協力医は、内科のため、専門医受診の際は、家族の付き添いを原則としている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	非常勤の看護師を配置し、医療との連携を図っている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時に必要な情報に関し、本人や家族等の了承のもと、病院側に提供している。又、退院後の受け入れ体制を整えたり、病院側とのカンファレンス等を行い、コーディネートしている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	「重度化した場合における対応に係る指針」を、本人や家族等に説明し、同意を得ている。又、重度化した場合や終末期ケアを踏まえた研修の出席やミーティング等で職員と話し合い、考え方を深めている。特に高齢利用者には、本人や家族等と終末期のあり方について、相談を行っている。	利用開始時に「重度化した場合における対応に係る指針」にて、事業所としての基本的な方針を説明し、同意書を交わしている。重度化した際には、本人・家族・医師と話し合いを行い、医療行為が必要でない場合には、できる範囲で適切な支援を行う考えである。常勤看護師の配置もないため、看取りは行なっておらず、基本的には、重度化した場合は医療機関へ転院する支援体制に取り組むことを、その方針としている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	マニュアルを作成し、定期的に研修等を行っている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	消防署と連絡を取り、指導・助言のもと防災訓練を定期的に行っている。又、警備会社と災害時のことに関し利用者や職員と、避難先について確認を行っている。	消防署の立会いも含め、年2回の避難訓練を、夜間想定、利用者参加の下、実施している。訓練内容も、警備会社を交えて警報音の聞き取り調査・避難経路の確認・同一建物内の併設事業所との合同訓練等、実践的な内容となっている。事業所としては、南海トラフ地震の津波等の災害対策も踏まえ、今後は、運営推進会議や商店街振興会の中で、地域住民の避難訓練への参加等、災害時における相互協力体制作りの協力要請を行っていきたい意向がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報の取り扱いは、慎重に行っている。一人ひとりの習慣や生活、環境などを把握し、声掛けの配慮、入浴時や排泄時の羞恥心に対する配慮も心がけている。	事業所は「尊厳を守る介護」を行う上で「言葉遣い」を重視しており、前年度の法人重点目標は「丁寧な言葉、丁寧な声かけ」であり、排泄や入浴の場面等ではプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。また、管理者は職員の指示的な言動に対しても、「理念」に沿った対応か否かの気づきを促すようにしている。更に、個人情報についても、新人研修時等に「職員倫理要綱」に則り、事例を挙げて注意喚起を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が外出を希望している時は、出来る限り体制を整え付き添いをしたり、訪室してマンツーマンで話を聞いたり、繰り返し説明する等、一人ひとりに合わせた対応を心がけ、満足のいく日常生活が送られるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	グループホームとしての決まりごとはあるが、一人ひとりの生活リズムを考慮し、利用者のペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合った利用者の好みの服を職員と一緒に選び、着用出来るよう支援している。又、希望者は、訪問美容や近所の理美容室を職員付き添いのもと利用している。化粧水や乳液を洗面台の鏡を見ながら行うよう、声掛けをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	法人の栄養士が献立を作成している。簡単な食事の準備・片付けは、職員と一緒に、食事時は職員も同じ場所で食事をし、楽しんでいただいている。又、利用者の体型や状態に合わせた椅子に座っていただき、食事が食べやすい工夫している。	献立は、法人の栄養士により作成され、昼・夕食の主菜は委託業者、朝食は1階のカフェ、簡単な料理は事業所の職員が調理している。米とぎ・汁物・おやつ等の簡単調理やデザートは利用者と一緒にしている。1階カフェで昼のティータイムを楽しんだり、家族との外出や外出行事で食事を楽しむこともある。また利用者の体に合わせた3種類の椅子により、食事環境の整備も図られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士による栄養管理や、食事量や水分摂取がチェック出来る体制を整えている。夜間のトイレの後等の飲水は、職員が声掛けをして、お茶をすすめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に口腔ケアを行ったり、出来る限り利用者自身で行えるよう支援している。義歯のある利用者は、必ず外して口腔ケアを行っていただき、夜間は各々義歯洗浄剤に浸けて保管している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	当施設には3ヶ所にトイレがあり、車椅子でも対応できるスペースを確保している。利用者の状況に応じた配慮に努め、日中や夜間の排泄状況を確認しながら、失禁パンツとパットを使用したり、失禁パンツのみを使用する等、一人ひとりの習慣や状況に合わせた柔軟な対応を心がけている。	出来るだけトイレで排泄してもらうように、排泄記録表等により、各人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。また、退院時オムツだった方が失禁パンツに改善した例や、夜間排泄時の転倒防止のため足元にセンサーマットの導入等、自立に向けた支援も行っている。なお、ポータブルトイレは歩行の不安定な場合や夜間のみ使用等、状況により使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分を摂取してもらう為に、細やかな声掛けや見守りを心がけている。日曜日以外のほぼ毎日、併設の個別対応デイサービスへ移動し、交流の時間において、体操やレクリエーションを行い、身体を動かす機会を設けている。又、出来る限り外出の機会を確保している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	個別に見守り、介助をしながら支援している。基本的には午後からの入浴としており、順番は、利用者の希望に合わせている。	入浴は、週2回、午後を基本とするが、状況により柔軟に対応し、利用者の体調や入浴習慣に合わせ、好みの入浴温度や時間に配慮している。入浴は半埋め込み式家庭浴槽での個人浴となっており、またぎ動作が難しい利用者には、座位で入浴できる特殊浴槽もあるが、現在は使用していない。また、お風呂嫌いの方には、ケア会議で検討し、1日を通しての対応策を考えて、職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりのペースの把握に努め、利用者の状態に合わせ、休息をすすめる等行っている。又、室温や湿度にも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師が中心となり、情報を交換している。又、誤薬や飲み忘れがないように、職員2名で服薬のチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	掃除・洗濯等は、出来る限り利用者自身で行うよう、声かけや見守りをしている。又、食事の片付けやティータイムのメニュー聞き取り等は、一人ひとりが役割を持てるよう努めている。おやつ作りやレクリエーションの参加を、楽しみにされている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	体調や天候等を考慮して、職員と一緒に外出し、希望に応えられるように努めている。短時間でも、当施設周辺の散歩や他拠点への物品の返却等、外の空気に触れ、気分転換できるよう心がけている。又、近くの公園への外出やドライブを兼ねて、遠くへ出掛けることもある。	日頃から天気の良い日には、利用者の希望により、少人数で、職員と事業所周りの散歩に出掛けている。また、吉浦の紫陽花ロードや土曜市、みなと祭りのパレード、大和ミュージアム見学等、普段は行けないような所へ出掛け、「非日常」を楽しむこともある。更に出掛けた時の記念写真が、テレビの下に飾っており、それを見ては会話に花が咲くこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりの能力に応じた対応をしている。お金を所持している利用者は、所持金額を出来る限り職員が把握している。又、紛失した場合の家族の了承も得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>携帯電話を持参している利用者を含め、希望があれば、自由に電話が出来るようにしている。手紙のやり取りを楽しみにしている入居者もいる。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>利用者が作成した壁画を掲示し、季節に応じた空間作りをしている。</p>	<p>共用空間は、職員が毎日掃除を行い、利用者はテーブル拭きを行い、清潔で居心地良い場所になるよう配慮している。また、利用者は洗濯干しや洗濯畳みも手伝い、出来る範囲の役割を担っている。フロアにはてるてる坊主や利用者が作成した朝顔の折り紙等を飾り、季節が感じられる。食堂には配置を自由に変えられる6角テーブルや適切な高さの椅子、浴室には特殊浴槽等、自立支援に資する環境整備も為されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>フロアにはソファを置き、入居者同士が会話をしたり、くつろげるスペースを設けている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室によって大きさや形が違い、また、本人が使い慣れた箆笥やベッド等の家具やテレビ、布団等を持ち込み、居心地よく過ごしていただけるよう努めている。又、利用者自身が自身の部屋と認識する為の番号は、やわらかい色使いとしている。</p>	<p>居室には、利用者が家で生活していた物をそのまま持って来て頂いている。居室には、ベッド・タンス等の使い慣れた物やテレビ・塗り絵等、好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせる様に工夫が為されている。各室の扉には、自ら貼り絵で作った名前と大きな番号が表示され、自分の部屋と認識しやすくなっている。また、夜間のみベッドからの転倒防止のため、柵による拘束を避け、センサーマットを導入するケースもある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>食事の準備や片付け、洗濯干しや洗濯たたみ等、自身で出来ていることは行っただけのよう、個別の対応を心がけている。又、歩行器を使用していただくことで、出来る限り自立した生活が送れるよう努めている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 **グループホーム ベたにあ**

作成日 **平成28年7月29日**

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	地域住民・多職種の参加の呼びかけ、多面からの議論を可能にする。	参加者が固定化されつつある。多面的な意見交換を可能にするため、出席可能メンバーの枠を広げる。	当施設の取り組みに理解、関わりのあるボランティア・地域住民の協力を得る。会議の内容やテーマを事前に設け、必要職種に協力を得る。	6ヶ月
2	4	意見交換の記録が不明瞭。	議論の過程を具体的に記載する事で、意見交換の記録の明確化を図る。	議事録・報告書の書式の工夫。実際におこなわれた意見を盛り込んだ議事録・報告書を作成する。	6ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。